

第41回

北区河川生物生息調査 報告書

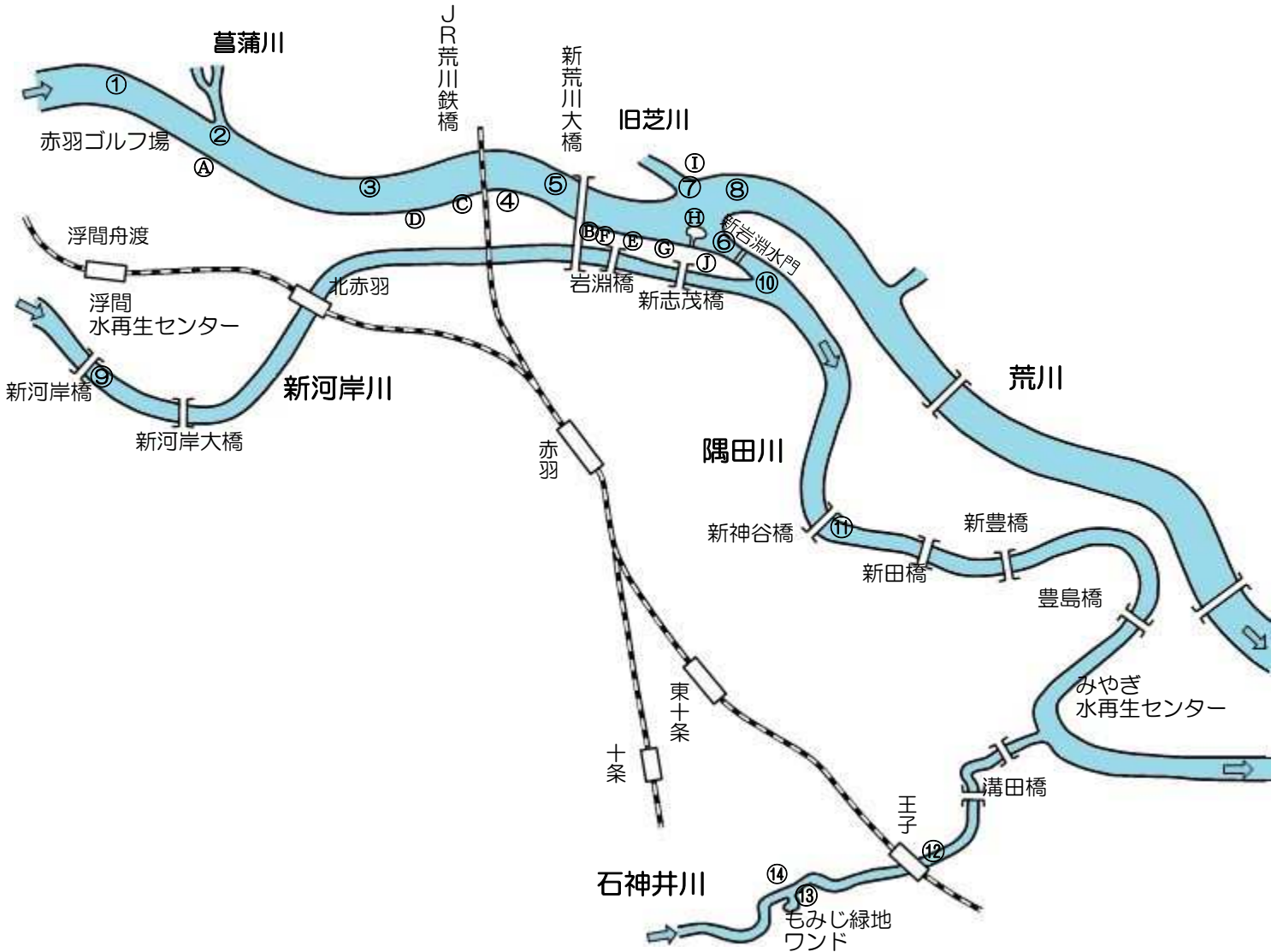
令和6年度



令和7年3月
北 区

北区河川生物生息調査地点図（令和6年度）

釣り調査地点 A～J
投網調査地点 ①～⑭



投網調査地点

◎令和6年9月19日 ☆10月2日 ★10月15日
[荒川]

- ☆☆-①戸田橋下流
- ☆☆-②菅蒲川・荒川合流点付近
- ☆☆-③JR 荒川鉄橋上流 200-400m 付近
- ◎-④荒川子どもの水辺ワンド（流出水路も含む）
- ☆-⑤新荒川大橋下
- ☆☆-⑥旧岩淵水門・新岩淵水門中間
- ☆☆-⑦旧芝川・荒川合流点付近
- ☆☆-⑧旧芝川・荒川合流点下流 200m 付近

[新河岸川]

- ★-⑨新河岸橋下

[隅田川]

- ★-⑩新岩淵水門下流
- ☆-⑪新神谷橋付近

[石神井川]

- ☆-⑫石神井川王子駅下トンネル内
- ◎-⑬もみじ緑地ワンド
- ◎-⑭もみじ緑地ワンド横本流

釣り調査地点

令和6年10月15日

[荒川]

- A 菅蒲川・荒川合流点右岸
 - B 新荒川大橋下流 50m 付近
 - C JR 荒川鉄橋下
 - D JR 荒川鉄橋上流 50m 付近右岸
 - E 新荒川大橋下流 200m 付近右岸
 - F 新荒川大橋下流 100m 付近右岸
 - G 新荒川大橋下流 350m 付近右岸
 - H 荒川赤水門緑地
 - I 旧芝川・荒川合流点付近
- [新河岸川]
- J 新志茂橋付近左岸

は じ め に

私たちの住む北区には、荒川をはじめ隅田川・新河岸川・石神井川の4河川が流れています。川は、昔から人々と深いかわりを持ち、まちの産業・文化の発展に大きな役割をはたしてきました。また、豊かな流れと美しい自然の景観も多くの恵みをもたらしてくれました。

しかし、戦後の産業経済の発展と急速な都市化の進行にともない、川は、工場排水や生活排水により著しく汚れてしまいました。なかには、一時期、悪臭がして魚も棲めないため、「死の川」と呼ばれた川もあったほどです。さらに、治水対策として垂直のコンクリート護岸がつくられ、人々をますます水辺から遠ざけてしまいました。

このように川が下水に近くなった時代から、近年は汚濁発生源に対する規制の強化と下水道整備等により、水質は良くなってきました。また、河川環境の整備も進み、各種の魚も見られるようになって、川は再び憩いの水辺として甦りつつあります。

しかし、魚などの水生生物が安定して棲め、誰もが安らぎやうるおいを得られる川としては、河川の構造改善、水質・流量の安定など、まだまだ多くの課題があります。さらなる水質改善や水辺環境の向上を図るには、区が各種の施策を積極的に推進することはいうまでもありませんが、区民の方々にも河川に対する強い関心を持っていただき、多方面からの対策を展開することが必要です。

区では、化学分析による水質調査だけではなく、河川の魚類生息状況を調査し、推移をみることにより河川環境を判断することを目的として、昭和59年度から「河川生物生息調査」を継続実施しています。この報告書は、令和6年度に実施した第41回調査の結果をまとめたものです。誰にでも親しめる水辺環境の実現に向けて、区民の方々に河川の水質や環境に対する理解を深めていただくための参考となれば幸いです。

なお、当調査にご協力いただいた北区釣魚連合会、淡水魚類研究者の君塚芳輝氏、一澤成典氏、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

【調査概要】

北区では区内の河川に生息している魚類を把握するため、令和6年9月～10月にかけて計3回魚類調査を行いました。採集した魚は、種・亜種（以下種類とする）の同定、個体数、全長と標準体長（最少～最大）の測定を行いました。

第1回調査は令和6年9月19日に、石神井川もみじ緑地ワンド・ワンド横の石神井川本流と、荒川子どもの水辺ワンドで、歩いての投網・手網による調査をしました。

第2回調査は令和6年10月2日に、荒川・隅田川・石神井川で、船からの投網による調査をしました。

第3回調査は令和6年10月15日に、荒川・新河岸川で、北区釣魚連合会の協力による釣りと、荒川・隅田川・新河岸川で船からの投網による調査をしました。

採集した一部の魚については、可食部の総水銀とPCBの含有量について魚肉分析をしました。

	調査日	調査項目	調査方法	調査場所
第1回	9月19日	魚類生息状況	歩いての投網・手網	石神井川・石神井川もみじ緑地ワンド 荒川子どもの水辺ワンド
第2回	10月2日	魚類生息状況	船からの投網	荒川 隅田川 石神井川
第3回	10月15日	魚類生息状況 魚肉分析	釣り 船からの投網	荒川 隅田川 新河岸川

〔石神井川もみじ緑地ワンド（音無もみじ緑地）〕

すり鉢状の護岸構造ですが、階段があって川岸近くまで降りることができます。川に面してワンドが設けられ、本流の流水環境に対して静水環境を付加することで、河川の構造的環境の多様性を高めています。ワンドの中央には水生植物などが繁茂し、増水時に川から入ってきた魚が定着しやすいようになっています。

〔荒川子どもの水辺ワンド（北区・子どもの水辺）〕

JR荒川鉄橋と新荒川大橋の間に挟まれた高水敷に、ワンドのある自然地「北区・子どもの水辺」が整備されています。平成26年度には、国土交通大臣表彰の「手づくり郷土賞」一般部門に選定されました。また、地域のボランティアの方々の熱心な活動に支えられ、良好な生態系の保持と多世代にわたる人々の自然環境学習の場として利用されています。令和2年度には、ボランティア団体である「北区・子どもの水辺協議会」が「第22回日本水大賞」審査部会特別賞を受賞いたしました。



【調査結果】

3日間の調査で27種類445尾が確認され、例年に比べ個体数がやや少ない結果となりました。調査を始めてから今までに確認された魚種は59種類です。

東京都レッドリスト記載種は5種類、環境省レッドリスト記載種は3種類、外来種は3種類確認されました。魚種の内訳は、淡水魚種と海水・汽水性魚種であり、広い範囲が汽水域や感潮域である北区内河川の特徴を表しています。

石神井川と石神井川もみじ緑地ワンドなどで確認されたアブラハヤ・シマドジョウ・ギバチは、元々この川には生息せず、多くの魚種は川での流程分布も異なるため、明らかに人為的放流によるものと考えられます。人為的放流は地域に形成された生物相や生態系、遺伝子資源に様々な影響を及ぼす可能性があるため、絶対に行うべきではありません。



手網によるワンド調査(石神井川もみじ緑地ワンド)



船からの投網(荒川)



釣りによる採集(協力: 北区釣魚連合会)



手網によるワンド調査(荒川子どもの水辺ワンド)

【河川別個体数】

各河川において確認された種類と個体数は以下のとおりです。

番号	目名	科名	標準和名	荒川		隅田川	新河岸川	石神井川		合計	備考
				荒川	子どもの水辺 ワンド			石神井川	もみじ緑地 ワンド		
1	ニシン	ニシン	コノシロ	22		1				23	
2	ウナギ	ウナギ	ウナギ	1						1	
3	コイ	コイ	タモロコ						4	4	国内移殖種
4			スゴモロコ	1	5					6	
5			モツゴ		52				26	78	
6			ニゴイ	20						20	
7			カマツカ			1				1	
8			アブラハヤ**						9	9	国内移殖種※
9			マルタ	3	2			5	1	11	
10			オイカワ		4				2	6	
11			ハス	5						5	国内移殖種
12			ギンブナ		11				1	12	
13			ゲンゴロウブナ	2			1			3	国内移殖種
14			コイ		3					3	
15			タイリクバラタナゴ		24					24	外来種
16			ドジョウ	ドジョウ					7	20	27
17		シマドジョウ**						5	13	18	国内移殖種※
18	ナマズ	ギギ	ギバチ**					3	3	国内移殖種※	
19	ダツ	サヨリ	クルメサヨリ	7					7		
20	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ		5				5	特定外来種	
21	ボラ	ボラ	ボラ	14	1	5			20		
22	スズキ	スズキ	スズキ	7				1	8		
23		サンフィッシュ	ブルーギル	20	10				30	特定外来種	
24		ハゼ	アベハゼ		33				33		
25			ヌマチチブ	17	8		2		27		
26			シモフリシマハゼ	12	8				20		
27			マハゼ	30	2		9		41		
8目11科27種類			個体数合計	161	168	7	12	18	79	445	
			種類数	14	14	3	3	4	9		

※国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

** 荒川水系の天然分布種だが、本流からの遡上はできないので、人為的な放流と思われる

【外来種の確認状況】

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で特定外来生物と指定された種及び「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」に記載された外来種を「外来種」としました。

特定外来生物に指定されているブルーギルは小型魚類やエビ類などを捕食するため、在来生物群集に対する影響が懸念されています。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト
コイ	コイ	タイリクバラタナゴ	○					●
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	○				●	●
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	○				●	●

【絶滅危惧種等の確認状況】

環境省レッドリスト 2020 及び東京都レッドデータブック（2023 年版）の選定基準で指定されている種。東京都レッドデータブックは区部の評価を基準としました。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	東京都 レッドデータブック	環境省 レッドリスト	国内 移殖種
コイ	コイ	ニゴイ	○				準絶滅危惧		
		アブラハヤ※				○	準絶滅危惧		○
	ドジョウ	ドジョウ				○	絶滅危惧ⅠA 類	準絶滅危惧	
ナマズ	ギギ	ギバチ※				○	絶滅危惧Ⅱ 類	絶滅危惧Ⅱ 類	○
ダツ	サヨリ	クルマサヨリ	○				絶滅危惧ⅠA 類	準絶滅危惧	

※荒川水系の天然分布種だが、本流からの溯上はできない。また都市河川である石神井川では、国内他水域からの人為的放流の可能性が極めて高い

「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドデータブック～2023 年版」（東京都環境局）

絶滅危惧ⅠA 類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧ⅠB 類：ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ 類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ 類」のランクに移行することが確実に考えられるもの

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
留意種：現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの

「環境省レッドリスト 2020【汽水・淡水魚類】」

絶滅危惧ⅠA 類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧ⅠB 類：ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ 類：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する要素を有するもの

【魚肉分析結果】

採集した魚類の中から6検体を選び、可食部に含まれている総水銀と PCB の量を分析しました。その結果、全検体で総水銀と PCB が検出されましたが、暫定的規制値以下でした。

令和6年10月15日採集

	魚類名	捕獲河川名	場所	総水銀	PCB
				mg/kg	mg/kg
1	ゲンゴロウブナ	新河岸川	新河岸橋下	0.12	0.18
2	コノシロ	荒川	菖蒲川・荒川合流点付近	0.06	0.40
3	スズキ	荒川	菖蒲川・荒川合流点右岸	0.19	0.11
4	ニゴイ	荒川	新荒川大橋下流 350m 付近右岸	0.07	0.39
5	マハゼ	荒川	荒川赤水門緑地	0.04	0.08
6	マハゼ	新河岸川	新志茂橋付近左岸	0.04	0.14

- (備考) 1.総水銀とは水銀及びその化合物をいう。
 2.分析値は全て乾燥試料あたりに換算してある。
 3.分析部位の可食部については、同じ種類の数尾の可食部を混合したものである。
 4.暫定的規制値
 ・総水銀…0.4mg/kg
 ・PCB(可食部のみ) 内海魚…3mg/kg
 5.試験方法：衛生試験方法 2.4 食品汚染物試験法準拠

【資料】

第1回投網・手網調査の結果（令和6年9月19日）

(1)石神井川

もみじ緑地ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	67~83	54~66	4
2	モツゴ	42~83	32~66	26
3	アブラハヤ	29~49	24~42	9
4	マルタ	83	67	1
5	オイカワ	33~51	25~42	2
6	ギンブナ	100	78	1
7	ドジョウ	47~123	39~108	20
8	シマドジョウ	37~61	31~52	13
9	ギパチ	38~46	31~41	3

もみじ緑地ワンド横本流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ドジョウ	12~53	10~40	7
2	シマドジョウ	15~65	12~53	5

(2)荒川

荒川子ども水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	41~90	33~76	52
2	マルタ	17~25	15~20	2
3	オイカワ	17~22	15~17	4
4	ギンブナ	15~329	12~257	11
5	コイ	22~23	13~18	3
6	タイリクバラタナゴ	20~55	16~43	24
7	カダヤシ	19~34	16~27	5
8	ボラ	89	79	1
9	ブルーギル	32~93	25~56	8
10	ヌマチチブ	31~47	27~41	4
11	マハゼ	78	62	1

荒川子ども水辺ワンド流出水路

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スゴモロコ	18~33	15~28	5
2	ブルーギル	35~39	28~32	2
3	アベハゼ	18~34	15~30	33
4	ヌマチチブ	30~42	24~38	4
5	シモフリシマハゼ	35~45	24~38	8
6	マハゼ	107	83	1

第2回投網調査の結果（令和6年10月2日）

(1)荒川

戸田橋下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	129	100	1
2	ハス	82	64	1
3	クルマサヨリ	155~169	144~152	2
4	ブルーギル	82	66	1

菖蒲川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	119~127	96~101	4
2	ニゴイ	125~283	100~243	2
3	ハス	73	58	1
4	ゲンゴロウブナ	155	118	1
5	クルマサヨリ	152~153	107~109	2
6	マハゼ	95~117	75~93	3

JR荒川鉄橋上流200~400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	105~128	83~103	7
2	スゴモロコ	38	31	1
3	ハス	89	73	1
4	スズキ	181~437	145~352	2
5	マハゼ	76~114	62~90	3

新荒川大橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	137	109	1
2	マルタ	103	86	1

旧岩淵水門・新岩淵水門中間

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	147	108	1
2	ニゴイ	100~162	82~130	3
3	マルタ	133	109	1
4	クルマサヨリ	152~159	137~139	3
5	マハゼ	106	80	1

旧芝川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	126~144	101~118	4
2	マルタ	234	199	1
3	ハス	85	71	1
4	ボラ	127~168	99~135	9
5	マハゼ	93	76	1

旧芝川・荒川合流点下流200m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	109~152	87~120	3

(2)隅田川

新神谷橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	115	99	1
2	カマツカ	38	32	1
3	ボラ	149	119	1

(3)石神井川

石神井川王子駅下トンネル内

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	462~519	387~453	5
2	スズキ	568	457	1

第3回投網調査の結果（令和6年10月15日）

(1) 荒川

戸田橋下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	132~140	106~110	2
2	スズキ	147~177	116~145	2
3	マハゼ	125	97	1

菖蒲川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	122~133	94~108	4
2	ニゴイ	142~150	115~120	2
3	ブルーギル	70~77	49~59	2
4	マハゼ	131	101	1

JR荒川鉄橋上流200-400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	183	148	1

旧岩淵水門・新岩淵水門中間

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	132~154	101~123	2
2	ゲンゴロウブナ	149	115	1
3	ボラ	133	105	1

旧芝川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	123	99	1
2	ボラ	123~148	100~117	3
3	マハゼ	111	89	1

旧芝川・荒川合流点下流200m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	111~129	92~104	5
2	ハス	165	130	1
3	マハゼ	123~137	98~105	2

(2) 新河岸川

新河岸橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ゲンゴロウブナ	386	302	1

(3) 隅田川

新岩淵水門下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	153~200	122~154	4

第3回釣り調査の結果（令和6年10月15日）

(1) 荒川

A. 菖蒲川・荒川合流点右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	145~190	120~154	3
2	ブルーギル	133~202	104~156	9
3	マハゼ	119	96	1

B. 新荒川大橋下流50m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ブルーギル	161	124	1
2	マハゼ	119~147	96~112	2

C. JR荒川鉄橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ウナギ	146	139	1
2	ヌマチチブ	35~62	28~53	13
3	シモフリシマハゼ	45	35	1
4	マハゼ	137~140	110	2

D. JR荒川鉄橋上流50m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ブルーギル	93~170	72~140	3
2	マハゼ	98~110	74~88	2

E. 新荒川大橋下流200m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
				0

F. 新荒川大橋下流100m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
				0

G. 新荒川大橋下流350m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	266~353	213~294	2
2	ボラ	330	271	1

H. 荒川赤水門緑地

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ヌマチチブ	50~60	40~49	4
2	シモフリシマハゼ	50~75	40~60	11
3	マハゼ	106~146	94~113	4

I. 旧芝川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ブルーギル	105~151	80~123	4
2	マハゼ	96~128	75~108	3

(2) 新河岸川

J. 新志茂橋付近左岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ヌマチチブ	62~68	52~56	2
2	マハゼ	120~140	95~115	9

北区で見られる魚たち 1 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<1> サッパ



<2> コノシロ



<3> カライワシ



<4> ウナギ



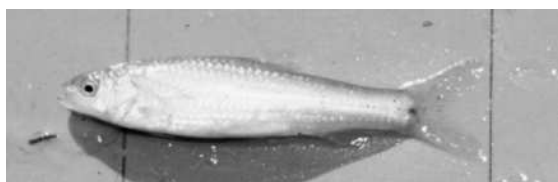
<5> アユ



<6> ワカサギ



<7> タモロコ



<8> スゴモロコ



<9> モツゴ



<10> ニゴイ



<11> カマツカ



<12> ツチフキ



<13> アブラハヤ



<14> ウグイ



<15> マルタ



<16> カワムツ



北区で見られる魚たち 2 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<17> オイカワ



<25> ゲンゴロウブナ



<18> ハス



<26> キンギョ



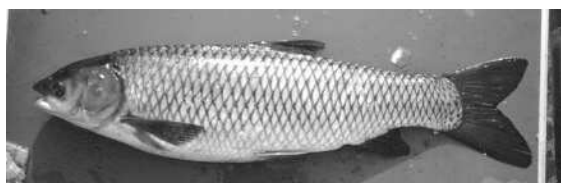
<19> ワタカ



<27> コイ



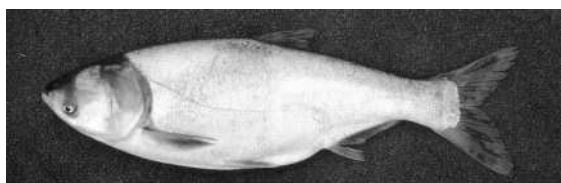
<20> ソウギョ



<28> ヤリタナゴ



<21> ハクレン



<29> アカヒレタビラ



<22> コクレン



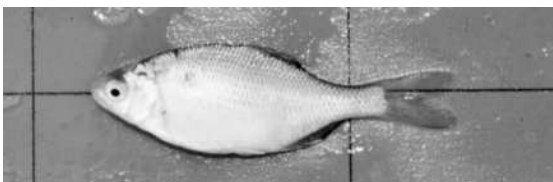
<30> タイリクバラタナゴ



<23> キンブナ



<31> ゼニタナゴ



<24> ギンブナ



<32> ドジョウ



北区で見られる魚たち 3 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<33> シマドジョウ



<41> カムルチー



<34> ギバチ



<42> スズキ



<35> ナマズ



<43> キチヌ



<36> メダカ



<44> オオクチバス ※特定外来生物



<37> クルメサヨリ



<45> コクチバス ※特定外来生物



<38> カダヤシ ※特定外来生物



<46> ブルーギル ※特定外来生物



<39> グッピー



<47> ヒイラギ



<40> ボラ



<48> シマイサキ



北区で見られる魚たち 4 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<49> コトヒキ



<50> アベハゼ



<51> ヒナハゼ



<52> クロダハゼ



<53> ウロハゼ



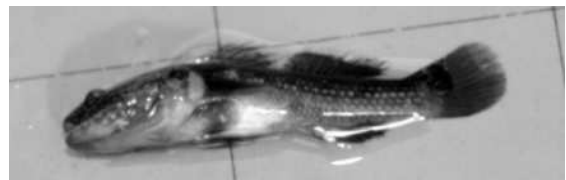
<54> ウキゴリ（淡水型）



<55> ビリンゴ



<56> ヌマチチブ



<57> シモフリシマハゼ



<58> マハゼ



<59> アシシロハゼ



君塚芳輝氏撮影：

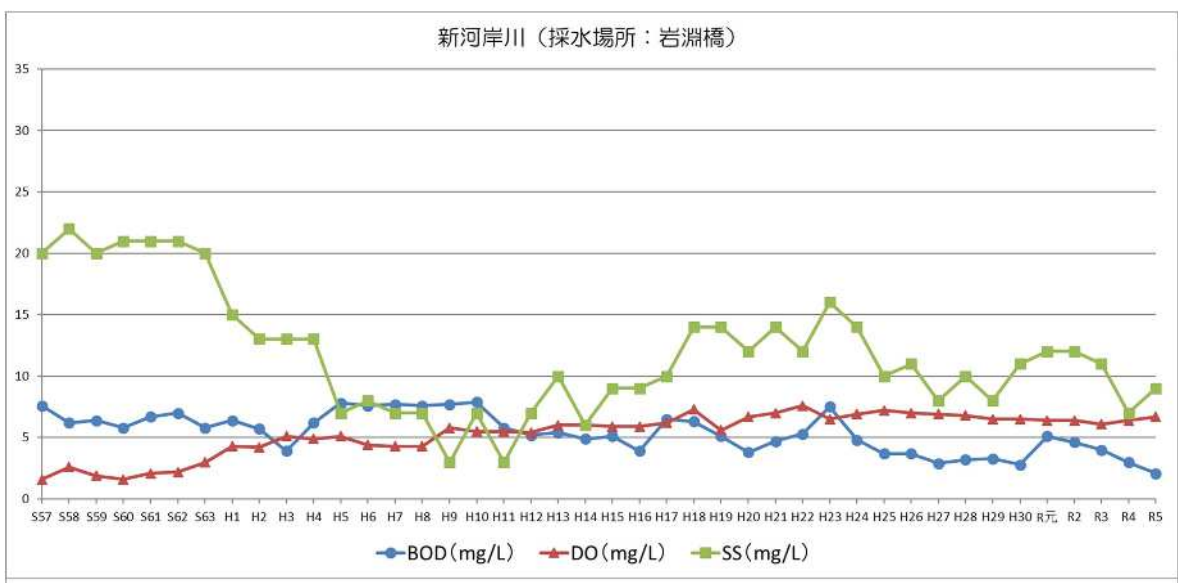
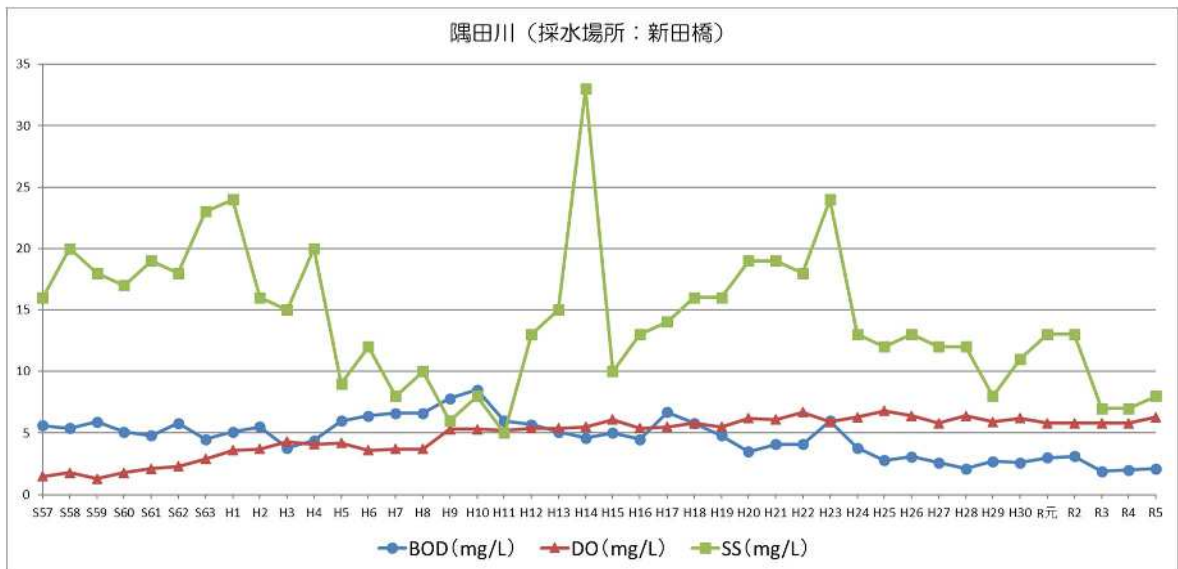
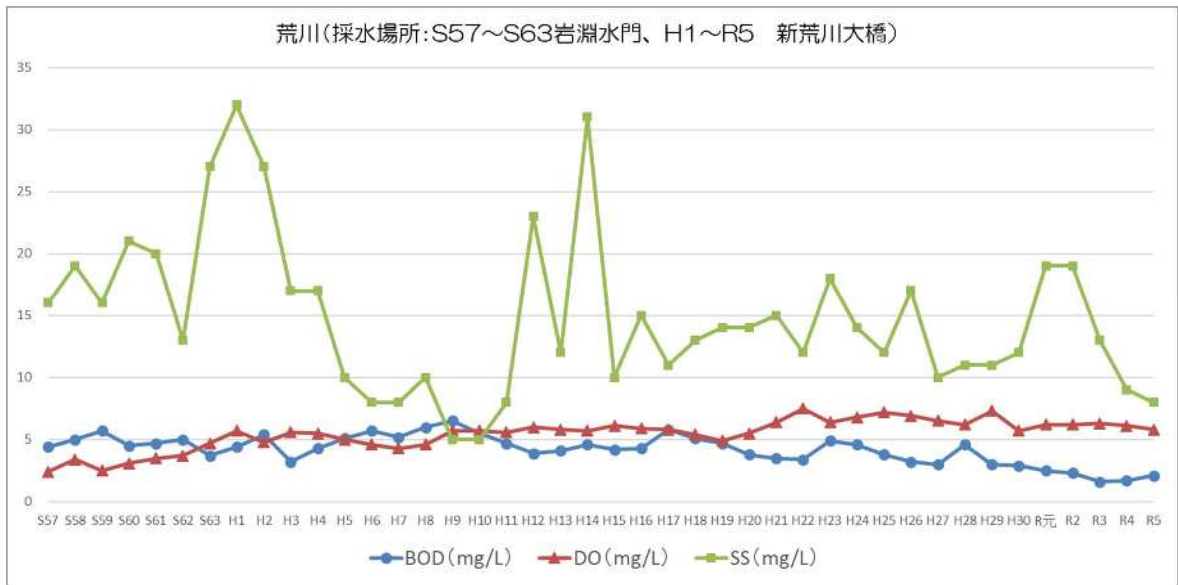
1,11,14,16,23,28,33,38,48,49,50,52,55

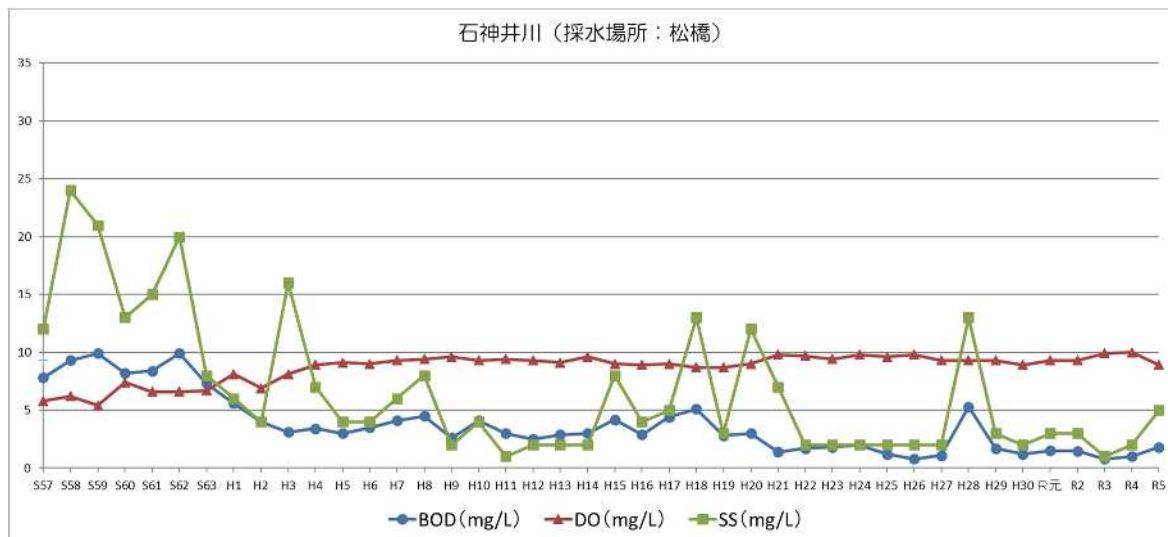
【年度別捕獲魚類一覽表】

番号	魚 類	S59 年度	S60 年度	S61 年度	S62 年度	S63 年度	H1 年度	H2 年度	H3 年度	H4 年度	H5 年度	H6 年度	H7 年度	H8 年度	H9 年度	H10 年度	H11 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	
1	サッパ																																	2	10	2	1						
2	コノシロ												4				29	7		6	1	98	19			91	21	19		39	20	65		2	71	107	19	41	63	30	115	23	
3	カライワシ																																			2							
4	ウナギ							2	2	1		6				1			1							1		1		1	2	2	3			1							1
5	アユ						1	1																							1												
6	ワカサギ															1	4				1	44	13	4			1		2			6	9				1						
7	タモロコ									2				1							3		6	12	8	1		11	9	15	11		5	39	12	46	8	5	3	4	5	4	
8	スゴモロコ		18	76		1				3		5									1	1	2	4			3	8			4	14		1	1		1		1				6
9	モツゴ	5	18	9	稚魚	6	1	多数	58	61	72	46	22	149	75	236	507	67	42	19	297	235	192	231	192	189	109	48	50	102	137	31	50	171	89	162	50	22	95	54	71	78	
10	ニゴイ	11	9	7	稚魚	2		15	5	16		8	4	5	2	3	7	12	8	8	14	9	14	3	12	7	14	11	24	4	26	7	5	9	9	15	5	31	13	11	11	20	
11	カマツカ				1																	1	1																		1		1
12	ツチフキ					1																	1										2	1									
13	アブラハヤ																	6		2	11	2	33	121	81	77	202	6	120	68	164	56	298	261	3	353	47	79	33	327	85	9	
14	ウグイ	3	1	1	2	1	5	9	4		20																				1		1	1		3				3	1		
15	マルタ						2	1	10	4	3	11	3	5	13	30	7	9		4	28	12	54	7	5	30	66	28		3	23	19	14	37	10	15	5	30	25	9	8	11	
16	カウムツ																																				8		1				
17	オイカワ	1	13	2	稚魚			2					1	1			6	2		1				110	31	60	3	90	19	31	35	31	6	113	79	6	50	104	23	108	80	1	6
18	ハス		1	1	6+稚魚	2	ハス	1	1	1		6	3	1		1	3			7	1					6	2	12	1	1	2	13	1	3	2			1	2	5	1	5	
19	ワタカ																	8	2		1				1																		
20	ソウギョ	2	3		1																																						
21	ハクレン	42	2		4	2	6		7	3	2	1			1	1	13	3		5	1	1	2	1	2		2		1														
22	コクレン							1																																			
23	キンブナ						2	7	2		1																																
24	ギンブナ	22	44	147	20+稚魚	6	19	14	29	31	15	23	22	53	11	12	9	9	9	2	4	5	14	13	74	64	40	36	18	65	26	4	18	37	97	28	26	12	8	13	16	12	
25	ゲンゴロウブナ	2	7	8	15	17	13	24	28	6	8	15	3	7	8	1	9	10	22	2	14	14	5	16	7	3	7	5	5	9	3	1	4	3	3	8	3	5	3	6	1	3	
26	キンギョ			1					1			1			1							23	1	3	1			13	10		1					1							
27	コイ	43	18	41	15	8	9	3+多数	14	15	7	8	12	15	18	6	10	9	20	9	8	84	4	13	17	7	16	10	10	3	7	3	11	5	8	3	3	9	1		4	3	
28	ヤリタナゴ																													2													
29	アカヒレタビラ																						1																				
30	タイリクバラタナゴ				微小			19				3	2	2	42					1		2	1	2	27	34	53	55	9	14	4	8	11	89	36	30	13	25	81	14	24		
31	ゼニタナゴ									1																																	
32	ドジョウ						1							2	1	14	19	6		1	11	33	140	23	41	19	22	41	18	7	4	21	40	26	9	168	42	4	12	20	25	27	
33	シマドジョウ																															1	8	11	11	33	4	4	15	18	8	18	
34	ギバチ																						8	2	1				3	13	4	2	1	4	2	1			1	3	14		3
35	ナマズ						1																																				
36	メダカ				微小							70		1	20	97		3			2	12	8	4	1			10	2	3	1	2	41	17	3	12	2	2	2	2	1		
37	クルマサヨリ																												1	2	1									1		13	7
38	カダヤシ																					5	3	42	7		6	11	1	1	5	6	4	7	70	6	44	11	13	57		5	
39	グッピー																					1	1																				
40	ボラ		2	5	3	3			1	11	2	7	22	64	62	17	71	41	30	20	22	49	100	72	34	49	61	26	72	16	322	59	50	26	97	15	46	29	54	85	77	20	
41	カムルチー										1																6			94	2								1			1	
42	スズキ			2	1		2	1	1	2	5	3	8	8	10	4	28	20	17	9	12	10	12	17	28	56	20	27	20	99	106	16	14	46	52	93	31	50	16	35	9	8	
43	キチヌ																																		2					1	1	2	
44	ブルーギル				1		3	1				1		1		2						10	13	10	1	16	4	6	7	16	17	6	6	32	7	25	6	7	10	30	16	30	
45	オオクチバス																					2	3	5			1							3			1				1	1	
46	コクチバス																																1	1						1			
47	ヒイラギ																1	13		23	2		1			1	2	240	4	45	1	17		6	5	51	20	9	6		4		
48	シマイサキ										2											1			3	2		2	1	1	5					2	1				2		
49	コトヒキ																												1														
50	アベハゼ																						1	1		2		13		4	43	3		25	23	11	4			3	15	33	
51	ヒナハゼ																																		1								
52	クロダハゼ																1	5									2				4		2	1		1	1	1	3	1	1		
53	ウロハゼ																																										
54	ウキゴリ																			1	2													</									

注：S62年度の「稚魚」は稚魚多数を表す（荒川での四つ手網による捕獲）。H2年度の「多数」は成魚多数を表す。

【河川水質の経年変化（年平均値）】





【北区を流れる河川の環境基準】

類型	該当河川	基準値			
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的溶存酸素 要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)
B	石神井川	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/L 以下	25 mg/L 以下	5 mg/L 以上
C	荒川 隅田川 新河岸川	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以下	50 mg/L 以下	5 mg/L 以上

※類型は東京都告示第 463 号（平成 29 年 3 月 17 日）により指定されている。

- 水素イオン濃度 (pH)：**
 液体が酸性であるかアルカリ性であるかを示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7 が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。
- 生物化学的酸素要求量 (BOD)：**
 水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
- 浮遊物質 (SS)：**
 水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつ。河川に SS が多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害し、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、川底の生物にも悪影響を及ぼします。
- 溶存酸素量 (DO)：**
 水中に溶解している酸素のこと。酸素のない川や少ない川はいわば死んだ川で、魚類は生存できません。



ゼロカーボンシティ

北区 ▶ 2050

北区河川生物生息調査報告書

令和7年3月発行

刊行物登録番号

6-3-076

発行／北区生活環境部環境課

〒114-0002

東京都北区王子1-12-4

TIC 王子ビル 2階

T E L 03 (3908) 8618 (直通)